JFA-47 都道府県協会訪問会議　報告

JFA の都道府県協会訪問会議が、今年も、8 月 15 日～9 月 13 日に開催された。47 の全都道府県協会を回るのに例年は 2 ヵ月半～3 ヵ月要していたが、今年度は、JFA 各部の部長が 47 都道府県を分担することで、1 ヵ月間に短縮して行うことが出来た。会議は①都道府県協会と JFA が直接コミュニケーション取る、②都道府県協会の実情を把握する、③都道府県協会内の議論の場として活用することを目的に行った。

このミーティングは約 2 時間～2 時間 30 分を目処に進められた。ミーティングの最初に、犬飼新会長のもと、プレジデンツ･ミッションを継続し、47 都道府県協会とよりコミュニケーションを密に図りながらさらにサッカー界を発展させていくことを確認した。

ミーティングの構成は、前半は「JFA2005 年宣言実現のためのロードマップ」（以下「ロードマップ」）、「プレジデンツ･ミッションの 2008 年度重点施策、解決すべき課題」について JFA から説明を行い、後半は、都道府県協会からの事前リクエストテーマに基づきディスカッションを行った。今年度は、できるだけ全員が発言できる様に心がけた。

今回の特徴では以下の点が挙げられる。

- **「ロードマップ」の展開･浸透とユースダイレクターの重要性**
  「JFA2005 年宣言」の実現に向けて作成された「ロードマップ」の説明を行い、JFA 全体の考え方、方向性の共有を図った。「ロードマップ」の方向性は理解されているものの、都道府県では、サッカー発展の歴史や課題は様々で、2 種･3 種･4 種の各種別委員長や技術委員長･ユースダイレクターを中心とした役員と様々な意見交換を行うこととなった。現状から目指す姿に向けた環境整備は大変な労力が予想され、今後、各協会の具体的なアクションは、関係者間で、共有し理解し合わなければならないと感じた。各協会内の種別委員会と技術委員会とのコミュニケーションが重要で、かつユースダイレクターが担う役割は大きい。「ロードマップ」の存在とユースダイレクターの位置付けが認識された重要な会議となった。

- **サッカーファミリー拡大に向けた施策と支部･地区協会/市区郡町村協会との連携**
  サッカーファミリー拡大に向けた施策とそれを推進するための柱となる支部･地区協会/市区郡町村協会との連携が再確認された。例えば、茨城県協会では、「市町村チャンピオン大会」が新設され、兵庫県協会では 13 都市協会にキッズ担当者を設置し、キッズプログラム活動を核としてサッカーファミリーの拡大が図られている。サッカーに携わる仲間づくりを各地で行われていることが把握でき、今後はサッカーファミリーのカウント方法の検討が必要となる。

- **小学生年代の子供たちに対する指導の充実**

  JFA キッズプログラムが 6 年目を迎え、幼少期にサッカーに出会った子供が、サッカーを継続してプレーできる環境づくり、ひいてはキッズの受け皿となる小学生年代の育成に携わっている指導者の役割に期待がかかっている。人格形成に重要な影響を及ぼす 10 歳～15 歳という年代に差し掛かる時期でもあり、ゴールデンエイジと位置付けられる年代に携わる指導者がより意義に感じられる活動がなされるよう、働きかけを行っていかなければならない。

- **JFA フットボールデー成功への高まり**

  JFA 創立記念日 9 月 10 日を「JFA フットボールデー」と制定し、「M9. 地域／都道府県協会の活動推進」の取り組みとして各都道府県協会で準備が進められてきた。47 都道府県協会からは多くの賛同を得られているものの、初年度となる今年は、各種競技会の日程が組まれていたり、既に都道府県協会・地区・市区郡町村協会主体で同類のイベントが実施されていたりという理由から、47 都道府県が JFA フットボールデーを開催することが出来なかった。訪問会議では「サッカーファミリー」に加え、「より広くより多くの人々」が一堂にサッカーに触れあい、楽しむことができる機会をつくり、この事業を通じ、新たなサッカーファミリーとの出会いの場としたいとの意欲ある発言を受けた。JFA フットボールデーの定着を視野に入れ、今年の実施内容の共有や検証を行った上で、次年度の成功に繋げていく。

- **JFA グリーンプロジェクトへの期待**

  都道府県フットボールセンター設置を推進している一方で、運営・管理が安価で誰でもが芝生づくりに携われる「ポット苗方式・芝生化モデル事業」を今年度スタートした。植え付けから、2 ヵ月後には、グラウンドが緑色に一変してしまう様子を見て、都道府県協会の関心の高さが伺われた。「ロードマップ」におけるゲーム環境の充実に関しても、ソフト面だけでなく、ハード面（グラウンド）の確保及び質の向上が不可欠との提言もあり、サッカーファミリー自らが参画していける芝生づくりに期待が寄せられた。